



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2015年4月30日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、5月15日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

## 2015 年度第 1 四半期の 1 株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>が CER<sup>(2)</sup>ベースで 2.6%増(調整前 12.8%増)

### ジェンザイムとメリアルが成長を牽引

- グループの売上高<sup>(3)</sup>は、2.4%増(調整前 12.3%増)の 88 億 1,000 万ユーロ
- 糖尿病の売上高は、米国における Lantus<sup>®</sup>(ランタス)への価格影響の見通しを反映し、微減(3.2%減)
- ジェンザイムは、主に Aubagio<sup>®</sup>に牽引され、30.9%増
- 動物用医薬品は、NexGard<sup>®</sup>(ネクスガード)の実績に牽引され、好業績を達成(13.5%増)
- ワクチンは、南半球のインフルエンザキャンペーンが遅れる見通しを受けて減少(4.6%減)
- 新興市場<sup>(4)</sup>の売上高は 7.3%増

### 堅調な財務実績

- 事業純利益<sup>(1)</sup>は、発売への投資と米国での Lantus<sup>®</sup>(ランタス)への価格影響にもかかわらず 1.6%増(調整前 11.6%増)の 17 億 2,600 万ユーロ(CER ベース)
- 1 株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、CER ベースで 2.6%増(調整前 12.8%増)の 1.32 ユーロ

### 新製品発売に関する重要な成果

- Toujeo<sup>®</sup>が米国で発売され、EU で承認される
- Cerdelga<sup>®</sup>(サデルガ)が欧州と日本で承認される
- 米国での市場投入が Lemtrada<sup>®</sup>の売上高に貢献
- アジアおよび中南米の 6 つの流行国で Dengue 熱ワクチンの申請を順次開始
- リキシセナチドの ELIXA 試験の心血管安全性に関する結果を受けて、2015 年度第 3 四半期に米国で再申請の予定

### 研究開発の進展

- 中等度から重度までの喘息における dupilumab の第 III 相試験を開始
- 特発性肺線維症における IL4/IL13 二重特異性モノクローナル抗体の第 IIb 相試験を開始

### 2015 年度通年の財務見通し

- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り<sup>(5)</sup>、2015 年度通年の 1 株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、前年度並みか微増(為替レート変動の影響を除く)と予想されます。
- また、今後 3 四半期の為替レートが 2015 年 3 月の平均レート並みであることを前提とすると、12%程度の為替レート変動のプラス影響が 2015 年度通年の 1 株当たり事業純利益に生じると予測されます。

### サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディケールのコメント:

「サノフィは、2015 年に良いスタートを切りました。当社の事業は、新製品サイクルに向けて確固たる基盤を確立しています。サノフィが最近発売した製品と、薬事審査が進行中の製品、そして年内に申請予定の製品は、今後の成長を牽引します。当社にとって重要なこの時期の重点対象は、革新的な製品ポートフォリオの価値を最大化し、トップクラスのバイオ医薬品企業としてのサノフィの地位をさらに確固たるものにする事です」

(1)財務指標の定義は付録 8 を参照(2)為替レート変動の影響を除く(3)特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(定義は付録 8 を参照)(4)8 ページを参照(5)2014 年度の 1 株当たり事業純利益は 5.20 ユーロ

## 2015 年度第 1 四半期のデータ

	2015 年度 第 1 四半期	前年同期比 (調整前)	前年同期比 (CER)
純売上高	€8,810 m	+12.3%	+2.4%
事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1,726 m	+11.6%	+1.6%
<b>1 株当たり事業純利益<sup>(1)</sup></b>	<b>€1.32</b>	<b>+12.8%</b>	<b>+2.6%</b>

当グループの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益<sup>(1)</sup>は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です。2015 年度第 1 四半期の連結損益計算書については付録 4 に、事業純利益から連結純利益への調整については付録 3 に記載しています。2015 年度第 1 四半期の連結純利益は、前年同期の 10 億 8,400 万ユーロに対し、10 億 2,300 万ユーロでした。2015 年度第 1 四半期の連結 1 株当たり純利益は、前年同期の 0.82 ユーロに対し、0.78 ユーロでした。

## 2015 年度第 1 四半期の売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高伸長データは為替レート変動の影響を排除して<sup>(1)</sup>算出しています。

2015 年度第 1 四半期における売上高は、前年同期比(調整前)12.3%増の 88 億 1,000 万ユーロとなりました。為替レートの変動(主に、ドルに対するユーロ安)により、9.9 ポイントのプラスの影響を受けました。第 1 四半期の売上高に影響を及ぼしたその他の通貨には、中国元のプラスの影響、ロシア・ルーブルのマイナス影響などがあります。

(単位:100 万ユーロ)	2015 年度第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
<b>医薬品</b>	<b>7,455</b>	<b>+2.2%</b>
糖尿病	1,837	-3.2%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	979	+5.3%
ジェンザイム	821	+30.9%
ジェネリック医薬品	478	+10.2%
オンコロジー	357	-7.3%
エスタブリッシュ処方製品	2,983	-1.5%
ワクチン	697	-4.6%
動物用医薬品	658	+13.5%
<b>純売上高合計</b>	<b>8,810</b>	<b>+2.4%</b>

## 医薬品

2015 年度第 1 四半期における医薬品事業の売上高は、主にジェンザイム、CHC、新興市場でのエスタブリッシュ処方製品によって牽引されましたが、糖尿病の売上高減少によって部分的に相殺され、2.2%増の 74 億 5,500 万ユーロとなりました。

<sup>(1)</sup> 財務指標の定義については、付録 8 をご参照ください。

## 糖尿病領域

(単位:100 万ユーロ)	2015 年度第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
Lantus <sup>®</sup> (ランタス)	1,584	-5.0%
Amaryl <sup>®</sup> (アマリール)	97	+1.2%
Apidra <sup>®</sup> (アピドラ)	91	+10.7%
Insuman <sup>®</sup>	33	+3.1%
BGM(血糖測定器)	16	+0.0%
Lyxumia <sup>®</sup> (リキシミア)	8	+60.0%
Toujeo <sup>®</sup>	7	-
Afrezza <sup>®</sup>	1	-
<b>糖尿病領域合計</b>	<b>1,837</b>	<b>-3.2%</b>

第 1 四半期における**糖尿病領域**の売上高は、3.2%減の 18 億 3,700 万ユーロとなりました。サノフィは最近、米国の保険支払者との厳密な契約戦略により、予想よりも早く Toujeo<sup>®</sup>の幅広い市場アクセスを確保することができました。その結果、サノフィは 2015 年度第 1 四半期における糖尿病部門の世界売上高の業績(為替レート変動の影響を除く)が同部門の通年の業績を暗示していると考えています。

期中における Lantus<sup>®</sup>(ランタス)の売上高は、米国での売上高減少が新興市場での大幅伸長によって部分的に相殺され、5.0%減の 15 億 8,400 万ユーロとなりました。Lantus<sup>®</sup>(ランタス)の米国での売上高は、2015 年 1 月 1 日以降に開始される契約について、主な保険支払者で有利な保険償還の位置付けを維持する上で必要な割り戻しのために、13.1%減の 10 億 700 万ユーロとなりました。Lantus<sup>®</sup>(ランタス)の新興市場での売上高は、すべての地域で堅調な成長が見られたことを反映し、18.0%増の 2 億 7,600 万ユーロとなりました。Lantus<sup>®</sup>(ランタス)の西欧諸国での売上高は、ドイツ、ポルトガル、スペインでの伸長によって牽引され、6.3%増の 2 億 2,300 万ユーロとなりました。

2 月下旬、1 型および 2 型糖尿病の成人患者の治療に使用される次世代の基礎インスリンである Toujeo<sup>®</sup>が米国食品医薬品局 (FDA) により承認されました。米国市場における全面的な発売活動は 3 月末に開始されており、それぞれの糖尿病患者に合わせた情報とサービスを提供するカスタマイズ式の患者支援プログラムである Toujeo<sup>®</sup> COACH も含まれています。第 1 四半期における同製品の売上高は、主に発売に先立った卸売業者の需要を反映し、700 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Amaryl<sup>®</sup>(アマリール)の売上高は、中南米と中国をはじめとする新興市場(12.9%増の 7,800 万ユーロ)によって維持され、1.2%増の 9,700 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Apidra<sup>®</sup>(アピドラ)の売上高は、新興市場(31.3%増の 2,200 万ユーロ)に牽引され、10.7%増の 9,100 万ユーロとなりました。米国での売上高は 3.6%増の 3,500 万ユーロ、西欧諸国での売上高は 8.7%増の 2,500 万ユーロでした。

第 1 四半期における Lyxumia<sup>®</sup>(リキシミア)の売上高は、800 万ユーロでした。Lyxumia<sup>®</sup>(リキシミア)の第 IIIb 相 ELIXA 心血管アウトカム試験の重要な結果が 3 月に発表され、これが 2015 年度第 3 四半期に米国で予定している同製品の再提出の裏付けとなります。

Afrezza<sup>®</sup>(新型吸入用速効型インスリン治療薬:MannKind 社とライセンス契約)は、2015 年 2 月に米国で発売されました。第 1 四半期における同製品の売上高は、100 万ユーロでした。

## コンシューマー・ヘルスケア

(単位:100 万ユーロ)	2015 年度第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
Allegra <sup>®</sup> (アレグラ)	142	+16.3%
Doliprane <sup>®</sup>	85	-3.4%
Enterogermina <sup>®</sup>	57	+36.8%
Essentiale <sup>®</sup>	50	-7.6%
Nasacort <sup>®</sup>	42	-16.7%
Maalox <sup>®</sup>	28	+3.7%
Lactacyd <sup>®</sup> (ラクタシード)	26	-4.0%
Dorflex <sup>®</sup>	23	0.0%
No Spa <sup>®</sup>	22	0.0%
Magne B6 <sup>®</sup>	20	+9.1%
その他	484	+6.9%
<b>コンシューマー・ヘルスケア合計</b>	<b>979</b>	<b>+5.3%</b>

第 1 四半期におけるコンシューマー・ヘルスケア (CHC) 製品の売上高は、Allegra<sup>®</sup> (アレグラ) と Enterogermina<sup>®</sup> に牽引され、5.3% 増の 9 億 7,900 万ユーロとなりました。期中における CHC の新興市場での売上高は、東欧諸国 (特に咳止め・風邪薬) と中南米に牽引され、6.3% 増の 4 億 5,500 万ユーロとなりました。第 1 四半期における米国の売上高は、新剤形の発売が功を奏した Allegra<sup>®</sup> (アレグラ) に牽引され、5.5% 増の 2 億 5,900 万ユーロとなりました。第 1 四半期における Nasacort<sup>®</sup> の売上高は、前年同期に同製品が発売された米国の不利な比較基準の影響を受け、16.7% 減の 4,200 万ユーロとなりました。2015 年 1 月にフランスで Doliprane<sup>®</sup> の価格が低下したにもかかわらず、CHC の西欧諸国の売上高は、0.5% 増の 2 億 200 万ユーロとなりました。

## ジェンザイム

(単位:100 万ユーロ)	2015 年度第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
Cerezyme <sup>®</sup> (セラザイム)	189	+4.8%
Myozyme <sup>®</sup> (マイオザイム)/ Lumizyme <sup>®</sup>	156	+19.0%
Fabrazyme <sup>®</sup> (ファブラザイム)	141	+27.6%
Aldurazyme <sup>®</sup> (アウドラザイム)	48	+9.8%
Cerdelga <sup>®</sup> (サデルガ)	10	-
<b>希少疾患合計</b>	<b>613</b>	<b>+15.9%</b>
Aubagio <sup>®</sup>	170	+88.5%
Lemtrada <sup>®</sup>	38	-
<b>多発性硬化症合計</b>	<b>208</b>	<b>+118.1%</b>
<b>ジェンザイム合計</b>	<b>821</b>	<b>+30.9%</b>

第 1 四半期におけるジェンザイムの売上高は、Aubagio<sup>®</sup> の好業績と希少疾患製品の 2 桁成長を反映し、30.9% 増の 8 億 2,100 万ユーロとなりました。ジェンザイムは、すべての地域で売上高の 2 桁成長を記録し、米国で 37.7% 増の 3 億 5,700 万ユーロ、西欧諸国で 24.2% 増の 2 億 4,400 万ユーロ、新興市場で 35.3% 増の 1 億 4,500 万ユーロ、その他の地域で 20.7% 増の 7,500 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における希少疾患製品の売上高は、15.9% 増の 6 億 1,300 万ユーロとなりました。

ゴーシェ病フランチャイズの売上高は、10.1% 増の 1 億 9,900 万ユーロでした。第 1 四半期における Cerezyme<sup>®</sup> (セラザイム) の売上高は、中南米をはじめとする新興市場 (16.4% 増の 6,600 万ユーロ) の好業績に牽引され、4.8% 増の 1 億 8,900 万ユーロとなりました。2014 年 8 月に FDA により承認された、ゴーシェ病 1 型成人患者のための唯一のファーストライン経口治療薬である Cerdelga<sup>®</sup> (サデルガ) は、米国で 1,000 万ユーロの売上高を記録しました。2015 年 1 月、欧州医薬品庁 (EMA) は、ゴーシェ病 1 型成人患者向けに

Cerdelga<sup>®</sup>(サデルガ)を承認し、同製品は4月に初の欧州市場であるドイツ市場で発売されました。Cerdelga<sup>®</sup>(サデルガ)は、3月末に日本でも承認されました。

第1四半期におけるFabrazyme<sup>®</sup>(ファブラザイム)の売上高は、米国(15.7%増の7,100万ユーロ)、新興市場(157.1%増の1,900万ユーロ)、西欧諸国(24.0%増の3,100万ユーロ)での大幅伸長に牽引され、27.6%増の1億4,100万ユーロとなりました。同製品の新興市場での売上高には、ブラジルにおける段階的な供給調整の好影響と新規患者の増加が貢献しました。

第1四半期におけるMyozyme<sup>®</sup>(マイオザイム)/Lumizyme<sup>®</sup>の売上高は、世界的な診断率の向上と患者の特定が新規患者の増加につながり、19.0%増の1億5,600万ユーロとなりました。米国の成長(29.0%増の4,800万ユーロ)には、2014年に臨床試験患者の移行が行われたことも貢献しています。新興市場の成長(36.8%増の2,800万ユーロ)も、ブラジルにおける政府の発注パターンの恩恵を受けました。

第1四半期における多発性硬化症治療薬の売上高は、118.1%増の2億800万ユーロでした。Aubagio<sup>®</sup>の売上高は、引き続き2倍以上成長し、前年同期の7,800万ユーロに対して1億7,000万ユーロとなりました。第1四半期におけるAubagio<sup>®</sup>の米国での売上高は、前年同期の5,900万ユーロに対し、1億2,300万ユーロでした。西欧諸国の売上高は、継続的展開とフランスでの発売成功を反映し、前年同期の1,700万ユーロに対し、3,600万ユーロとなりました。

第1四半期におけるLemtrada<sup>®</sup>の売上高は、西欧諸国の1,800万ユーロと、昨年後半に同製品が発売された米国の1,600万ユーロを含め、3,800万ユーロとなりました。

## ジェネリック医薬品

第1四半期におけるジェネリック医薬品の売上高は、新興市場(12.7%増の2億7,700万ユーロ)の業績に牽引され、10.2%増の4億7,800万ユーロとなりました。新興市場の業績には、東欧諸国における咳止め・風邪薬、および中南米が貢献しました。米国におけるジェネリック医薬品の売上高は、Lovenox<sup>®</sup>とTaxotere<sup>®</sup>(タキソテール)のオーソライズド・ジェネリック医薬品の成長を反映し、17.9%増の4,100万ユーロとなりました。西欧諸国におけるジェネリック医薬品の売上高は、2.9%減の1億3,800万ユーロでした。その他地域における売上高は、日本でAllegra<sup>®</sup>(アレグラ)のジェネリック医薬品の売上に牽引され、2倍以上の2,200万ユーロとなりました。

## オンコロジー製品

(単位:100万ユーロ)	2015年度第1四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
Jevtana <sup>®</sup> (ジェブタナ)	77	+7.6%
Thymoglobulin <sup>®</sup> (サイモグロブリン)	55	-7.7%
Eloxatin <sup>®</sup>	54	+4.3%
Taxotere <sup>®</sup> (タキソテール)	53	-31.9%
Mozobil <sup>®</sup>	34	+20.0%
Zaltrap <sup>®</sup>	20	+18.8%
<b>オンコロジー製品合計</b>	<b>357</b>	<b>-7.3%</b>

第1四半期におけるオンコロジー製品の売上高は、主にTaxotere<sup>®</sup>(タキソテール)の売上高減少を反映し、7.3%減の3億5,700万ユーロとなりました。

第1四半期におけるJevtana<sup>®</sup>(ジェブタナ)の売上高は、米国(15.0%増の2,700万ユーロ)および2014年9月に同製品が発売された日本に牽引され、7.6%増の7,700万ユーロとなりました。

第1四半期におけるThymoglobulin<sup>®</sup>(サイモグロブリン)の売上高は、7.7%減の5,500万ユーロでした。

第1四半期におけるTaxotere<sup>®</sup>(タキソテール)の売上高は、主にジェネリック医薬品との競合を反映し、31.9%減の5,300万ユーロとなりました。同時期のEloxatin<sup>®</sup>の売上高は、中国での成長に牽引され、4.3%増の5,400万ユーロとなりました。

第1四半期における **Mozobil**<sup>®</sup>の売上高は、米国(15.4%増の1,800万ユーロ)および新興市場(66.7%増の500万ユーロ)に牽引され、20.0%増の3,400万ユーロとなりました。

第1四半期における **Zaltrap**<sup>®</sup>の売上高は、西欧諸国の売上高(前年同期の700万ユーロに対し、1,300万ユーロ)によって米国での売上高減少が相殺され、18.8%増の2,000万ユーロとなりました。

## エスタブリッシュ処方製品

(単位:100万ユーロ)	2015年度第1四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
Plavix <sup>®</sup> (プラビックス)	483	-9.4%
Lovenox <sup>®</sup>	438	+1.2%
Renvela <sup>®</sup> /Renagel <sup>®</sup> (レナジェル)	226	+13.4%
Aprovel <sup>®</sup> /Avapro <sup>®</sup>	201	+0.0%
Synvisc <sup>®</sup> (サイビスク)/Synvisc-One <sup>®</sup>	85	+2.9%
Multaq <sup>®</sup>	83	-4.1%
Allegra <sup>®</sup> (アレグラ)	80	-5.0%
Myslee <sup>®</sup> (マイスリー)/Ambien <sup>®</sup> /Stilnox <sup>®</sup>	75	-11.5%
その他	1,312	-0.8%
<b>エスタブリッシュ処方製品合計</b>	<b>2,983</b>	<b>-1.5%</b>

エスタブリッシュ処方製品の売上高合計は、1.5%減の29億8,300万ユーロでした。

第1四半期における **Plavix**<sup>®</sup>(プラビックス)の売上高は、西欧諸国でのジェネリック医薬品との競合による売上高減少(30.6%減の4,400万ユーロ)と、日本での2014年度第2四半期に消費税が引き上げられることを見越した購入パターンであった前年度との不利な比較の影響を受けた売上高減少(12.6%減の1億9,800万ユーロ)を反映し、9.4%減の4億8,300万ユーロとなりました。2015年半ばに、**Plavix**<sup>®</sup>(プラビックス)のジェネリック医薬品が日本市場に投入されるものと予測されます。新興市場での**Plavix**<sup>®</sup>(プラビックス)の売上高は、主に中東での売上高減少により、0.5%増の2億2,600万ユーロとなりました。中国における同製品の売上高は、4.4%増の1億4,200万ユーロでした。

第1四半期における **Lovenox**<sup>®</sup>の売上高は、1.2%増の4億3,800万ユーロでした。新興市場における同製品の売上高は、米国でのジェネリック医薬品との競合による売上高減少(31.3%減の2,600万ユーロ)と西欧諸国での前年同期並みの売上高(2億3,100万ユーロ)によって部分的に相殺されたものの、中東と中南米での伸長に牽引され、11.2%増の1億5,700万ユーロとなりました。

第1四半期における **Renvela**<sup>®</sup>/**Renagel**<sup>®</sup>(レナジェル)の売上高は、米国(19.3%増の1億6,500万ユーロ)に牽引され、13.4%増の2億2,600万ユーロとなりました。米国における同製品の売上高は、**Renvela**<sup>®</sup>錠のオーソライズド・ジェネリック医薬品について、2014年4月以降、米国で限られた割り当て分のボトルを販売するライセンスをImpax社に供与したために競合が緩和されたことの恩恵を受けました。

第1四半期における **Aprovel**<sup>®</sup>/**Avapro**<sup>®</sup>の売上高は、前年同期並みの2億100万ユーロでした。同製品は、中南米と中国に牽引された新興市場で好業績(18.7%増の1億2,500万ユーロ)を記録しましたが、ジェネリック医薬品との競合による西欧諸国での売上高減少(33.3%減の3,700万ユーロ)によって相殺されました。

## ワクチン

(単位:100万ユーロ)	2015年度第1四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチン (Pentacel <sup>®</sup> 、Pentaxim <sup>®</sup> 、Hexaxim <sup>®</sup> 、およびImovax <sup>®</sup> (イモバックス)ポリオを含む)	282	+15.6%

インフルエンザワクチン (Vaxigrip <sup>®</sup> とFluzone <sup>®</sup> を含む)	22	-84.4%
髄膜炎・肺炎ワクチン (Menactra <sup>®</sup> (メナクトラ)を含む)	97	+44.6%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン(Adacel <sup>®</sup> を含む)	95	-1.2%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	82	-1.3%
その他のワクチン	119	+41.4%
<b>ワクチン合計 (連結売上高)</b>	<b>697</b>	<b>-4.6%</b>

第1四半期におけるサノフィパスツールの連結売上高は、南半球のインフルエンザキャンペーンの遅れにより、インフルエンザワクチンの売上高が減少し、新興市場の業績(19.4%減の2億2,800万ユーロ)に影響が生じたことを反映し、4.6%減の6億9,700万ユーロとなりました。インフルエンザワクチンの売上高を除くと、それ以外のポートフォリオは第1四半期に17.2%伸長しました。第1四半期における米国の売上高は、Pentacel<sup>®</sup>の継続的な回復と、Menactra<sup>®</sup>(メナクトラ)およびVaxServe社(米国でワクチンを供給するサノフィパスツールの関連会社)の業績に牽引され、15.4%増の3億9,500万ユーロとなりました。

今年は、2つのウイルス株の変更が必要となったことにより、南半球のインフルエンザキャンペーンに遅れが生じたため、第1四半期におけるインフルエンザワクチンの売上高は、前年同期の1億3,500万ユーロに対し、2,200万ユーロとなりました。

第1四半期におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチンの売上高は、15.6%増の2億8,200万ユーロでした。米国におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチンの売上高は、Pentacel<sup>®</sup>の売上が引き続き回復したことを反映し、26.3%増の1億1,800万ユーロとなりました。新興市場におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチンの売上高は、特に中国におけるPentaxim<sup>®</sup>の売上高増加に牽引され、32.2%増の1億3,200万ユーロとなりました。その他市場におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチンの第1四半期の売上高は、日本でのImovax<sup>®</sup>(イモバックス)ポリオワクチンおよびヒブワクチンの売上高減少を反映し、43.6%減の2,500万ユーロとなりました。

2014年12月、Shantha社は、2015年および2016年の国際保健団体への供給用として、同社の小児用5種混合ワクチンであるShan5<sup>TM</sup>の3,700万回接種分を受注しました。Shantha社によって製造されたShan5<sup>®</sup>の初回の530万回接種分は3月に提供され、第1四半期の売上高は700万ユーロとなりました。

第1四半期におけるMenactra<sup>®</sup>(メナクトラ)の売上高は、米国疾病予防管理センター(CDC)からの有利な段階的受注のために米国で62.2%伸長したことを反映し、50.0%増の8,700万ユーロとなりました。

第1四半期における成人用ブースターワクチンの売上高は、1.2%減の9,500万ユーロとなりました。

第1四半期におけるトラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチンの売上高は、1.3%減の8,200万ユーロでした。

欧州におけるメルク社とのジョイントベンチャーであるサノフィパスツールMSD(サノフィに非連結)の第1四半期の売上高は、Gardasil<sup>®</sup>の売上高減少を受け、前年同期比(調整前)11.8%減の1億3,900万ユーロでした。

## 動物用医薬品

(単位:100万ユーロ)	2015年度第1四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
コンパニオンアニマル	443	+13.1%
産業動物	215	+14.5%
<b>動物用医薬品合計</b>	<b>658</b>	<b>+13.5%</b>
－フィプロニル製品	193	+1.2%
－ワクチン	186	+11.7%
－アベルメクチン製品	157	+17.5%

第 1 四半期における**動物用医薬品**の売上高は、2014 年に始まった回復を確認すると共に、コンパニオンアニマルと産業動物の両セグメントによって支えられ、13.5%増の 6 億 5,800 万ユーロとなりました。米国における動物用医薬品の売上高は 15.2%増の 3 億 700 万ユーロ、新興市場における動物用医薬品の売上高は 8.9%増の 1 億 3,100 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における**コンパニオンアニマル**・セグメントの売上高は、NexGard™ (ネクスガード) の成功と Heartgard® (カルドメック) の業績を反映し、13.1%増の 4 億 4,300 万ユーロとなりました。メリアルは、新世代のノミ・マダニ駆除薬である犬用 NexGard™ (ネクスガード) を 2014 年度第 1 四半期に米国で発売し、2014 年度には欧州諸国、オーストラリア、日本、2015 年度第 1 四半期にはブラジルで発売しました。2015 年度第 1 四半期における NexGard® (ネクスガード) の売上高は、前年同期から 2 倍以上に増加しました。Frontline® (フロントライン) 製品群は、期中に売上高が 1.2%増加し、引き続き堅調な業績を上げました。

第 1 四半期における**産業動物**セグメントの売上高は、14.5%増の 2 億 1,500 万ユーロでした。昨年、主にアジアで鳥インフルエンザによって影響を受けた家禽市場は、第 1 四半期に回復し、メリアルは、特に新興市場で競合への対応策を強化しました。反芻動物事業は、米国で寄生虫管理のトップブランドになった LongRange™ の成功に牽引されました。獣医公衆衛生製品の売上高は、韓国で口蹄疫が流行し、メリアルが疾病管理支援の主要パートナーを務めたことによって牽引されました。

## 地域別純売上高

(単位:100 万ユーロ)	2015 年度第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)
米国	2,976	+1.0%
新興市場 <sup>(a)</sup>	2,859	+7.3%
—アジア	849	+8.6%
—中南米	846	+7.1%
—東欧、ロシア、およびトルコ	586	+8.6%
—アフリカおよび中東	530	+2.7%
西欧諸国 <sup>(b)</sup>	2,031	+0.6%
その他 <sup>(c)</sup>	944	-3.5%
—日本	569	-8.2%
<b>合計</b>	<b>8,810</b>	<b>+2.4%</b>

(a) 米国、カナダ、西欧諸国、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランドを除く各国  
(b) フランス、ドイツ、英国、イタリア、スペイン、ギリシャ、キプロス、マルタ、ベルギー、ルクセンブルク、ポルトガル、オランダ、オーストリア、スイス、スウェーデン、アイルランド、フィンランド、ノルウェー、アイスランド、デンマーク  
(c) 日本、韓国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

米国での売上高は、1.0%増の 29 億 7,600 万ユーロでした。ジェンザイム(37.7%増)、ワクチン(15.4%増)、および動物用医薬品(15.2%増)の好業績が Lantus® (ランタス) の売上高減少(13.1%減)によって部分的に相殺されました。

第 1 四半期における**新興市場**の売上高は、7.3%増の 28 億 5,900 万ユーロとなりました。新興市場における医薬品事業の売上高は、糖尿病(18.5%増)、ジェンザイム(35.3%増)、ジェネリック医薬品(12.7%増)に牽引され、10.4%増となりました。ワクチンの売上高は、南半球のインフルエンザキャンペーンの遅れを反映し、19.4%減の 2 億 2,800 万ユーロとなりました。動物用医薬品は、家禽用製品に牽引され、8.9%増の 1 億 3,100 万ユーロと堅調な成長を記録しました。中国の売上高は、ワクチン、Lantus® (ランタス)、Plavix® (プラビックス)、Aprovel®、および Depakine® に牽引され、7.7%増の 4 億 8,400 万ユーロとなりました。第 1 四半期における東欧、ロシア、およびトルコの売上高は、トルコ、ハンガリー、ポーランド、およびウクライナの好業績に支えられ、8.6%増の 5 億 8,600 万ユーロとなりました。ロシアの売上高は、0.5%増の 1 億 3,200 万ユーロでした。アフリカおよび中東の売上高は、2.7%増の 5 億 3,000 万ユーロでした。中南米の売上高は、ベネズエラでの売上高増加がこの地域におけるワクチンの売上高減少(66.9%減)によって部分的に相殺され、7.1%増の 8 億 4,600 万ユーロとなりました。ブラジルの売上高は、ジェンザイム(64.3%増)およびジェネリック医薬品(9.6%増)の好業績にもかかわらず、ワクチンの売上高減少(85.3%減)の影響を受け、20.9%減の 2 億 8,300



万ユーロとなりました。ベネズエラでは、現地市場の状況に関連した購入パターンのため、2015 年度第 1 四半期に需要が大幅に増加しました。その結果、第 1 四半期におけるベネズエラの売上高は、前年同期の 6,600 万ユーロに対し、2 億ユーロとなりました。2015 年度には、この需要の増加は再現されないものと予測されます。第 1 四半期における新興市場の売上高に対するベネズエラのプラスの影響は、インフルエンザキャンペーンの遅れによるインフルエンザワクチンの売上高減少(前年同期の 1 億 500 万ユーロに対し、2,000 万ユーロ)によって、部分的に相殺されました。

第 1 四半期における西欧諸国の売上高は、0.6%増の 20 億 3,100 万ユーロでした。Aprovel<sup>®</sup>および Plavix<sup>®</sup> (プラビックス)のジェネリック医薬品との競合の影響によって、ジェンザイム(24.2%増)および動物用医薬品(8.5%増)の好業績が部分的に相殺されました。

第 1 四半期における日本の売上高は、Taxotere<sup>®</sup>(タキソテール)、Myslee<sup>®</sup>(マイスリー)、および Amaryl<sup>®</sup>(アマリアル)のジェネリック医薬品の競合と、ワクチンおよび Plavix<sup>®</sup>(プラビックス)の売上高減少の影響を反映し、8.2%減の 5 億 6,900 万ユーロとなりました。

## 研究開発の最新情報

サノフィの研究開発パイプラインの全容については、付録 6 をご参照ください。

### 薬事関連の最新情報

2015 年 2 月 5 日の 2014 年度通年業績発表以降、以下の薬事関連の出来事がありました。

- 4 月、ジェンザイムのファブリー病経口治療薬である基質合成酵素阻害剤 **GZ/SAR402671** が、FDA よりファストトラック指定を受けました。
- 3 月、**Quadracel<sup>®</sup>**(ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオワクチン)が、米国で 4~6 歳の小児向けに承認されました。
- **Cerdelga<sup>®</sup>**(サデルガ、一般名:エリグルスタット酒石酸塩)が、ゴーシェ病 1 型成人患者のための経口治療薬として、3 月に日本で、2 月にオーストラリアで承認されました。
- 2 月、1 型および 2 型糖尿病成人患者の治療に使用される次世代の基礎インスリンである **Toujeo<sup>®</sup>** が、FDA により承認されました。Toujeo<sup>®</sup>は、4 月に EU でも承認されました。

2015 年 4 月末時点の研究開発ポートフォリオは、臨床開発段階にあるワクチンの候補を含む 37 のプロジェクト(ライフサイクルマネジメントを除く)から構成され、そのうち 12 は第 III 相あるいは規制当局に承認申請を行った段階にあります。

### ポートフォリオの最新情報

#### 第 III 相:

- コントロール不良の中等度から重度までの成人喘息患者における **dupilumab** の第 III 相試験が最近開始されました。
- 3 月、高リスクの 2 型糖尿病成人患者を対象とし、**リキシセナチド**をプラセボと比較して評価する第 IIIb 相 **ELIXA** 心血管アウトカム試験の重要な結果が発表されました。この試験では、心血管安全性において、プラセボに対して優越性ではないものの、リキシセナチドの非劣性が明らかになりました。**ELIXA** 試験の完全な結果は、2015 年 6 月 8 日に開催される第 75 回米国糖尿病学会 (ADA) 学術会議で発表されます。この結果は、2015 年度第 3 四半期の FDA への予定通りの再提出に向けて、米国でのリキシセナチドの新薬承認申請 (NDA) にも盛り込まれます。

- 3月、高リスクの高コレステロール血症患者 2,341 人の参加を得て開発中の治療薬 **Praluent®** (一般名: **alirocumab**、Regeneron 社との共同開発) の第 III 相試験である **ODYSSEY LONG TERM** 試験の 18 カ月目の結果がニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌のオンライン版に掲載されました。ODYSSEY LONG TERM 試験では、**Praluent 150 mg** を 2 週間に 1 回投与した場合、24 週目の時点で、主要有効性エンドポイントである低比重リポタンパクコレステロール (LDL コレステロール) がプラセボと比較してさらに **62%** 低下し、LDL コレステロール低下効果は **78 週間** にわたって維持されました。既定の評価項目 (冠動脈性心疾患による死亡、心筋梗塞、脳卒中、および入院が必要な不安定狭心症を含む) を用いた事後解析では、判定された重度の有害な心臓関連イベントが **Praluent®** 群では 1,550 人中 27 人 (1.7%)、プラセボ群では 788 人中 26 人 (3.3%) で観察されました (ハザード比: 0.52、95% CI: 0.31 - 0.90、名目上の p 値=0.02)。

#### 第 II 相:

- 特発性肺線維症における **IL4/IL13** 二重特異性モノクローナル抗体 **SAR156597** の第 IIb 相試験が開始されました。
- サノフィは、抗 **CD19** モノクローナル抗体 (**SAR3419**) の権利を **ImmunoGen** 社に返還することを決定しました。さらに、**Exelixis** 社の **XL765** と **メルク KGaA** 社の **pimasertib** との併用療法の第 II 相試験は中止されました。

#### 第 I 相:

- ミオシン阻害剤 (**Myokardia** 社との提携) **SAR439152** が肥大型心筋症において第 I 相に入りました。
- HDM2/p53** 作動薬 **SAR405838** の単剤療法、および **メルク KGaA** 社の **pimasertib** との併用療法は、開発が中止されました。またサノフィは、クローン病に関して第 I 相試験で評価中の抗 **LIGHT** モノクローナル抗体 **SAR252067** の開発を進めないことを決定しました。世界的な権利は、協和発酵キリンに返還されました。
- サノフィは、加齢黄斑変性症に関する **GZ402663** の第 I 相プロジェクトの開発を中止することを決定しました。

#### 提携

- 2月、サノフィは、オランダのバイオテクノロジー企業である **Lead Pharma** 社との間で、**ROR ガンマ t** と呼ばれる核内ホルモン受容体を標的とし、関節リウマチ、乾癬、炎症性腸疾患などの幅広い自己免疫疾患を治療する、低分子治療薬の創薬・開発・販売に関する共同研究およびライセンス契約を締結したことを発表しました。
- 2月、**ジェンザイム** と **Voyager Therapeutics** 社は、重度の中枢神経系 (CNS) 疾患に対する新規遺伝子治療の探索・開発・販売に関する重要な戦略的提携を発表しました。この提携には、パーキンソン病、フリードライヒ運動失調症、ハンチントン病、その他の CNS 疾患に関する複数の遺伝子治療プログラムが含まれます。

## 2015 年度第 1 四半期の業績

### 事業純利益<sup>(1)</sup>

2015 年度第 1 四半期におけるサノフィの純売上高は、前年同期比 (調整前) で **12.3%** 増 (為替レート変動の影響を排除した場合は **2.4%** 増) の **88 億 1,000 万ユーロ** となりました。

<sup>(1)</sup> 財務指標の定義については付録 8、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録 3 を参照

第 1 四半期における**その他収益**は、3.6%減の 8,000 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、その他収益は、欧州で Enbrel の売上高に対して受け取るロイヤリティが減少したことを反映し、14.5%減となりました。

第 1 四半期における**売上総利益**は、12.8%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 1.8%増)の 61 億 400 万ユーロとなりました。売上総利益率は、生産能力の改善、米国の糖尿病の影響を十分に相殺した為替レート変動のプラスの影響、および生物学的製剤の伸長を反映し、前年同期と比較し 0.3 ポイント改善し、69.3%となりました。

第 1 四半期における**研究開発費**は、5.3%増の 11 億 9,900 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、研究開発費は、2015 年度の臨床試験プログラムの時期を反映し、1.8%減少しました。

第 1 四半期における**販売費および一般管理費(SG&A)**は、17.3%増の 24 億 3,800 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、SG&A は、ジェンザイムの新製品発売、米国における糖尿病領域、および新興市場への投資を反映し、6.6%増となりました。第 1 四半期の純売上高に占める SG&A の割合は、前年同期比で 1.2 ポイント増加し、27.7%となりました。

**その他の当期営業損益(費用控除後)**は、前年同期の 2,500 万ユーロの損失に対し、6,700 万ユーロの損失となりました。2015 年度のこの項目には、ベネズエラでの業務に関連して計上された 6,600 万ユーロの為替損が含まれています。

第 1 四半期における**関連会社持分利益**は、前年同期の 1,300 万ユーロに対し、3,100 万ユーロとなりました。このデータには、2014 年 4 月以降の持分法に基づき計上された Regeneron 社の利益に占める当社の持分、および欧州におけるメルク社とのワクチン関連ジョイントベンチャーであるサノフィパスツール MSD の利益に占める当社の持分が含まれています。

第 1 四半期における**非支配株主に帰属する純利益**は、前年同期の 3,500 万ユーロの損失に対し、3,300 万ユーロの損失となりました。

第 1 四半期における**事業営業利益**は、11.8%増の 23 億 9,800 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、事業営業利益は 2.1%増でした。純売上高に占める事業営業利益の割合は、新製品発売に対する投資に関連した SG&A の増加を受けて、前年同期と比較し 0.2 ポイント減少し、27.2%となりました。

第 1 四半期における**純財務費用**は、前年同期の 7,600 万ユーロに対し、9,700 万ユーロでした。この項目には、金融投資の売却に関連した 2015 年度第 1 四半期における 1,600 万ユーロ、前年同期の 4,100 万ユーロのキャピタルゲインが含まれています。

第 1 四半期における**実効税率**は、前年同期並みの 25%でした。

第 1 四半期における**事業純利益<sup>(1)</sup>**は、11.6%増の 17 億 2,600 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、事業純利益は 1.6%増でした。純売上高に占める事業純利益の割合は、前年同期の 19.7%に対し、19.6%となりました。

2015 年度第 1 四半期の **1 株当たり事業利益<sup>(1)</sup>(EPS)**は、調整前では 12.8%増、為替レート変動の影響を排除した場合は 2.6%増の 1.32 ユーロとなりました。2015 年度第 1 四半期の期中平均発行済み株式数は、前年同期の 13 億 1,990 万株に対し、13 億 840 万株となりました。

## 事業純利益から連結純利益への調整(付録 3 を参照)

2015 年度第 1 四半期の事業純利益と当社株主に帰属する連結純利益間の主な調整項目は、以下のとおりです。

<sup>(1)</sup> 財務指標の定義については付録 8、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録 3 を参照

- 買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの 1 億 7,800 万ユーロ、ジェンザイムの 2 億 2,600 万ユーロ、メリアル<sup>®</sup>の 1 億 1,900 万ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:2,800 万ユーロ)に関連した償却費、6 億 1,800 万ユーロ。これらの項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 主に初期段階の研究開発プロジェクトに関連した無形資産の減損 2,700 万ユーロ。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- CVR に関連した偶発対価の公正価値の上昇(2,300 万ユーロの所得)および Lemtrada<sup>®</sup>に関連したバイエル社の偶発対価の公正価値の上昇(2,000 万ユーロの損失)を反映した 100 万ユーロの所得。
- 主にフランスの研究開発に関連した 3 億 5,300 万ユーロの事業再編費用。
- 上記項目から生じた 3 億 5,500 万ユーロの税効果(無形固定資産に対する償却費から生じた 2 億 1,700 万ユーロ、事業再編費用に関連した 1 億 2,100 万ユーロ、無形固定資産の減損損失に関連した 1,000 万ユーロ、および偶発対価債務の公正価値での再評価に関連した 700 万ユーロから構成される)(付録 3 を参照)。
- 「関連会社持分利益」に含まれる、関連会社買収の一部としての資産および負債の公正価値での再評価、ならびにジョイントベンチャーの無形固定資産の償却に関連した 6,200 万ユーロの費用(税控除後)。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。

## 資本配分

新しい生物学的製剤能力への投資によって牽引された(前年同期の 2 億 7,900 万ユーロに対し)3 億 5,500 万ユーロの資本支出と、特に在庫量の季節性と在庫の積み増しによる 3 億 7,900 万ユーロの運転資本の増加を考慮し、2015 年度第 1 四半期における営業活動からの純キャッシュは、12 億 4,700 万ユーロとなりました。この純キャッシュフローは、新株発行による収益(2 億 4,700 万ユーロ)によって部分的に相殺された株式の買い戻し(7 億 9,400 万ユーロ)、買収・提携(売却を控除)(3 億 2,700 万ユーロ)、および事業再編費用(1 億 4,800 万ユーロ)のための財源に充当しました。純負債は、米ドルで保有された負債(5 億 9,300 万ユーロ相当)の換算の影響を含め、2014 年度 12 月 31 日時点の 71 億 7,100 万ユーロから、2015 年度 3 月 31 日時点の 75 億 7,100 万ユーロ(77 億 4,000 万ユーロの現金および現金同等物を控除)へと増加しました。

# 付録

## 付録一覧

- 付録 1: 2015 年度第 1 四半期の地域別・製品別連結純売上高
- 付録 2: 2015 年度第 1 四半期の事業純利益計算書
- 付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整
- 付録 4: 2015 年度第 1 四半期の連結損益計算書
- 付録 5: 2015 年の為替感度
- 付録 6: 研究開発パイプライン
- 付録 7: 2015 年度に見込まれる研究開発マイルストーン
- 付録 8: 定義

付録 1: 2015 年度第 1 四半期の地域別・製品別連結純売上高

2015 年度第 1 四半期純売上高 (単位:100 万ユーロ)	合計	前年度 比 (CER)	前年度比 調整前	西欧 諸国	前年度 比 (CER)	米国	前年度 比 (CER)	新興 市場	前年度 比 (CER)	その他	前年度 比 (CER)
Lantus (ランタス)	1,584	-5.0%	9.4%	223	6.3%	1,007	-13.1%	276	18.0%	78	1.4%
Apidra (アピドラ)	91	10.7%	21.3%	25	8.7%	35	3.6%	22	31.3%	9	0.0%
Amaryl (アビドラ)	97	1.2%	12.8%	4	-33.3%	1	-	78	12.9%	14	-33.3%
Insuman	33	3.1%	3.1%	18	-14.3%	0	-	14	25.0%	1	-100.0%
Lyxumia (リクスマミア)	8	60.0%	60.0%	5	66.7%	0	-	2	-	1	-50.0%
Afrezza	1	-	-	0	-	1	-	0	-	0	-
Toujeo	7	-	-	0	-	7	-	0	-	0	-
<b>糖尿病</b>	<b>1,837</b>	<b>-3.2%</b>	<b>10.5%</b>	<b>290</b>	<b>4.7%</b>	<b>1,051</b>	<b>-12.0%</b>	<b>393</b>	<b>18.5%</b>	<b>103</b>	<b>-6.0%</b>
Taxotere (タキソテール)	53	-31.9%	-23.2%	2	-50.0%	2	-33.3%	31	-27.8%	18	-34.6%
Jevtana (ジエブタナ)	77	7.6%	16.7%	38	-2.6%	27	15.0%	8	0.0%	4	300.0%
Eloxatine	54	4.3%	17.4%	1	0.0%	1	0.0%	32	8.0%	20	0.0%
Thymoglobulin (サイモグロブリン)	55	-7.7%	5.8%	9	0.0%	32	13.0%	9	-41.2%	5	0.0%
Mozobil	34	20.0%	36.0%	10	12.5%	18	15.4%	5	66.7%	1	0.0%
Zaltrap	20	18.8%	25.0%	13	85.7%	6	-37.5%	1	0.0%	0	-
その他のオンコロジー製品	64	-20.0%	-8.6%	14	-12.5%	38	-31.1%	8	-14.3%	4	150.0%
<b>オンコロジー</b>	<b>357</b>	<b>-7.3%</b>	<b>3.8%</b>	<b>87</b>	<b>2.4%</b>	<b>124</b>	<b>-8.8%</b>	<b>94</b>	<b>-14.6%</b>	<b>52</b>	<b>-5.7%</b>
Aubagio	170	88.5%	117.9%	36	105.9%	123	69.5%	6	400.0%	5	600.0%
Lemtrada	38	580.0%	660.0%	18	260.0%	16	-	2	-	2	-
Cerezyme (セラゼイム)	189	4.8%	12.5%	61	3.4%	50	-8.9%	66	16.4%	12	11.1%
Cerdelga (サデルガ)	10	-	-	0	-	10	-	0	-	0	-
Myozyme (マイオザイム)	156	19.0%	28.9%	69	7.9%	48	29.0%	28	36.8%	11	25.0%
Fabrazyme (ファブラザイム)	141	27.6%	43.9%	31	24.0%	71	15.7%	19	157.1%	20	13.3%
Aldurazyme (アウドラザイム)	48	9.8%	17.1%	17	6.3%	9	14.3%	16	15.4%	6	0.0%
その他の希少疾患製品	69	10.9%	25.5%	12	22.2%	30	21.1%	8	28.6%	19	-10.0%
<b>ジェンザイム</b>	<b>821</b>	<b>30.9%</b>	<b>45.1%</b>	<b>244</b>	<b>24.2%</b>	<b>357</b>	<b>37.7%</b>	<b>145</b>	<b>35.3%</b>	<b>75</b>	<b>20.7%</b>
Plavix (プラビックス)	483	-9.4%	-0.8%	44	-30.6%	0	-	226	0.5%	213	-12.2%
Lovenox	438	1.2%	5.3%	231	0.0%	26	-31.3%	157	11.2%	24	0.0%
Aprovel	201	0.0%	12.3%	37	-33.3%	3	-25.0%	125	18.7%	36	6.7%
Renagel (レナジェル) および Renvela	226	13.4%	31.4%	33	3.1%	165	19.3%	22	0.0%	6	0.0%
Allegra (アレグラ)	80	-5.0%	0.0%	3	0.0%	0	-	0	-	77	-5.2%
Stilnox (マイスリー)	75	-11.5%	-3.8%	10	-9.1%	18	-6.3%	16	7.1%	31	-21.6%
Depakine	104	7.6%	13.0%	35	3.0%	0	-	65	10.9%	4	0.0%
Synvisc (サイビスク) / Synvisc One	85	2.9%	21.4%	7	16.7%	65	1.9%	10	12.5%	3	-33.3%
Tritace	75	5.9%	10.3%	30	-6.3%	0	-	44	21.2%	1	-33.3%
Multaq	83	-4.1%	13.7%	10	0.0%	70	-5.0%	3	0.0%	0	0.0%
Lasix (ラシックス)	42	11.1%	16.7%	18	-10.0%	1	0.0%	14	8.3%	9	166.7%
Targocid (タゴシッド)	40	2.7%	8.1%	20	0.0%	0	-	19	13.3%	1	-50.0%
Orudis	50	31.4%	42.9%	4	-20.0%	0	-	45	41.4%	1	0.0%
Cordarone (アンカロン)	34	3.1%	6.3%	6	0.0%	0	-	20	11.1%	8	-12.5%
Xatral	25	-4.2%	4.2%	9	-10.0%	0	-	15	0.0%	1	0.0%
Actonel	7	-66.7%	-66.7%	1	-75.0%	0	-	4	-50.0%	2	-85.7%
Auvi-Q / Allerject	17	40.0%	70.0%	1	0.0%	13	37.5%	0	-	3	100.0%
その他の処方薬	918	-3.0%	1.0%	394	-3.9%	81	-33.7%	351	8.7%	92	-5.4%
<b>エスタブリッシュ処方製品計</b>	<b>2,983</b>	<b>-1.5%</b>	<b>5.8%</b>	<b>893</b>	<b>-6.3%</b>	<b>442</b>	<b>-5.7%</b>	<b>1,136</b>	<b>9.0%</b>	<b>512</b>	<b>-9.0%</b>
<b>コンシューマー・ヘルスケア</b>	<b>979</b>	<b>5.3%</b>	<b>10.6%</b>	<b>202</b>	<b>0.5%</b>	<b>259</b>	<b>5.5%</b>	<b>455</b>	<b>6.3%</b>	<b>63</b>	<b>15.4%</b>
<b>ジェネリック医薬品</b>	<b>478</b>	<b>10.2%</b>	<b>13.5%</b>	<b>138</b>	<b>-2.9%</b>	<b>41</b>	<b>17.9%</b>	<b>277</b>	<b>12.7%</b>	<b>22</b>	<b>110.0%</b>
<b>医薬品</b>	<b>7,455</b>	<b>2.2%</b>	<b>11.3%</b>	<b>1,854</b>	<b>-0.1%</b>	<b>2,274</b>	<b>-2.8%</b>	<b>2,500</b>	<b>10.4%</b>	<b>827</b>	<b>-3.1%</b>
ボリオ・百日咳ワクチン	282	15.6%	33.6%	7	16.7%	118	26.3%	132	32.2%	25	-43.6%
インフルエンザワクチン	22	-84.4%	-83.7%	0	-	-2	-104.8%	20	-81.9%	4	-66.7%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎	97	44.6%	73.2%	1	-	74	57.9%	20	26.7%	2	-66.7%
成人用ブースター (追加接種) ワクチン	95	-1.2%	17.3%	5	-37.5%	73	-6.3%	12	57.1%	5	100.0%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病 用ワクチン	82	-1.3%	9.3%	8	60.0%	19	0.0%	40	-7.5%	15	-6.7%
その他のワクチン	119	41.4%	70.0%	0	-100.0%	113	41.5%	4	200.0%	2	100.0%
<b>ワクチン</b>	<b>697</b>	<b>-4.6%</b>	<b>11.0%</b>	<b>21</b>	<b>0.0%</b>	<b>395</b>	<b>15.4%</b>	<b>228</b>	<b>-19.4%</b>	<b>53</b>	<b>-31.4%</b>
ファイブニル製品	193	1.2%	12.9%	69	9.7%	88	-5.3%	24	4.5%	12	-8.3%
ワクチン	186	11.7%	20.8%	42	0.0%	43	2.9%	79	10.3%	22	100.0%
アパルメクチン製品	157	17.5%	37.7%	17	6.3%	108	31.3%	11	-9.1%	21	-5.0%
その他の動物用医薬品	122	38.5%	56.4%	28	22.7%	68	36.6%	17	27.3%	9	175.0%
<b>動物用医薬品</b>	<b>658</b>	<b>13.5%</b>	<b>27.3%</b>	<b>156</b>	<b>8.5%</b>	<b>307</b>	<b>15.2%</b>	<b>131</b>	<b>8.9%</b>	<b>64</b>	<b>32.6%</b>
<b>グループ合計</b>	<b>8,810</b>	<b>2.4%</b>	<b>12.3%</b>	<b>2,031</b>	<b>0.6%</b>	<b>2,976</b>	<b>1.0%</b>	<b>2,859</b>	<b>7.3%</b>	<b>944</b>	<b>-3.5%</b>

## 付録 2: 事業純利益計算書

2015 年度 第 1 四半期	グループ合計			医薬品			ワクチン			動物用医薬品			その他	
(単位:100 万 ユーロ)	Q1 2015	Q1 2014	前年度 比	Q1 2015	Q1 2014	前年度 比	Q1 2015	Q1 2014	前年度 比	Q1 2015	Q1 2014	前年度 比	Q1 2015	Q1 2014
純売上高	8,810	7,842	12.3%	7,455	6,697	11.3%	697	628	11.0%	658	517	27.3%	-	-
その他収益	80	83	(3.6%)	62	68	(8.8%)	6	7	(14.3%)	12	8	50.0%	-	-
売上原価	(2,786)	(2,516)	10.7%	(2,190)	(1,988)	10.2%	(376)	(350)	7.4%	(220)	(178)	23.6%	-	-
純売上高に占める割合	(31.6%)	(32.1%)		(29.4%)	(29.7%)		(53.9%)	(55.7%)		(33.4%)	(34.4%)			
売上総利益	6,104	5,409	12.8%	5,327	4,777	11.5%	327	285	14.7%	450	347	29.7%	-	-
純売上高に占める割合	69.3%	69.0%		71.5%	71.3%		46.9%	45.4%		68.4%	67.1%			
研究開発費	(1,199)	(1,139)	5.3%	(1,039)	(995)	4.4%	(120)	(107)	12.1%	(40)	(37)	8.1%	-	-
純売上高に占める割合	(13.6%)	(14.5%)		(13.9%)	(14.9%)		(17.2%)	(17.0%)		(6.1%)	(7.2%)			
販売費および一般管理費	(2,438)	(2,078)	17.3%	(2,094)	(1,791)	16.9%	(156)	(129)	20.9%	(188)	(158)	19.0%	-	-
純売上高に占める割合	(27.7%)	(26.5%)		(28.1%)	(26.7%)		(22.4%)	(20.6%)		(28.6%)	(30.5%)			
その他の当期営業損益	(67)	(25)		(28)	(23)		1	(2)		-	6		(40)	(6)
関連会社 <sup>(1)</sup> および合弁会社持分利益	31	13		32	8		(1)	5		-	-		-	-
非支配株主に帰属する純利益	(33)	(35)		(33)	(35)		-	-		-	-		-	-
事業営業利益	2,398	2,145	11.8%	2,165	1,941	11.5%	51	52	(1.9%)	222	158	40.5%	(40)	(6)
純売上高に占める割合	27.2%	27.4%		29.0%	29.0%		7.3%	8.3%		33.7%	30.6%			
財務収益(費用)	(97)	(76)												
法人税	(575)	(522)												
法人税率 <sup>(2)</sup>	25.0%	25.0%												
事業純利益	1,726	1,547	11.6%											
純売上高に占める割合	19.6%	19.7%												
1 株当たり事業純利益 <sup>(3)</sup> (単位:ユーロ)	1.32	1.17	12.8%											

(1) 税控除後

(2) 税引前事業利益、関連会社、非支配株主に帰属する純利益に基づいて算出

(3) 2015 年度第 1 四半期の 13 億 840 万株、前年同期の 13 億 1,990 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

### 付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整

(単位: 100 万ユーロ)	2015 年度 第 1 四半期	2014 年度 第 1 四半期	前年度比
事業純利益	1,726	1,547	11.6%
無形固定資産の償却 <sup>(1)</sup>	(618)	(677)	
無形固定資産の減損	(27)	(3)	
偶発対価債務の公正価値での再評価	1	(8)	
事業再編費用	(353)	(51)	
その他の損益および訴訟費用	-	35 <sup>(2)</sup>	
上記項目の税効果:	355	248	
無形固定資産の償却	217	244	
無形固定資産の減損	10	1	
偶発対価債務の公正価値での再評価	7	1	
事業再編費用	121	15	
その他の損益および訴訟費用	-	(13)	
上記の非支配株主帰属分	1	1	
関連会社と合弁会社の事業再編費用、関連会社と合弁会社に対する買収の影響から生じる費用	(62)	(8)	
当社株主に帰属する純利益	1,023	1,084	(5.6%)
<b>連結 1 株当たり純利益<sup>(3)</sup> (単位: ユーロ)</b>	<b>0.78</b>	<b>0.82</b>	

(1) 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2015 年度第 1 四半期は 5 億 9,000 万ユーロ、前年同期は 6 億 5,700 万ユーロとなった

(2) 2014 年度の業績には、Alnylam 社持分の初日利益が表示されている

(3) 2015 年度第 1 四半期の 13 億 840 万株、前年同期の 13 億 1,990 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

事業純利益から連結純利益への調整については、11 ページを参照



## 付録 4: 連結損益計算書

(単位: 100 万ユーロ)	2015 年度 第 1 四半期	2014 年度 第 1 四半期
<b>純売上高</b>	<b>8,810</b>	<b>7,842</b>
その他収益	80	83
売上原価	(2,786)	(2,516)
<b>売上総利益</b>	<b>6,104</b>	<b>5,409</b>
研究開発費	(1,199)	(1,139)
販売費および一般管理費	(2,438)	(2,078)
その他の当期営業収益	(30)	10
その他の当期営業費用	(37)	(35)
無形固定資産の償却	(618)	(677)
無形固定資産の減損	(27)	(3)
偶発対価債務の公正価値での再評価	1	(8)
事業再編費用	(353)	(51)
<b>営業利益</b>	<b>1,403</b>	<b>1,428</b>
財務費用	(133)	(147)
財務収益	36	106
<b>関連会社および合弁会社持分利益を除く税引前利益</b>	<b>1,306</b>	<b>1,387</b>
法人税	(220)	(274)
関連会社および合弁会社持分利益	(31)	5
<b>純利益</b>	<b>1,055</b>	<b>1,118</b>
非支配株主に帰属する純利益	32	34
<b>当社株主に帰属する純利益</b>	<b>1,023</b>	<b>1,084</b>
期中平均発行済み株式数(単位: 100 万株)	1,308.4	1,319.9
<b>1 株当たり純利益(単位: ユーロ)</b>	<b>0.78</b>	<b>0.82</b>

## 付録 5: 2015 年の為替感度

### 2015 年の 1 株当たり事業純利益の為替感度

通貨	対ユーロでの変動	事業純利益の為替感度
米ドル	-0.05	+0.10 ユーロ
日本円	+5	-0.03 ユーロ
ロシア・ルーブル	+10	-0.06 ユーロ

### 2015 年度第 1 四半期売上高に対する通貨変動リスク

通貨	2015 年度第 1 四半期
米ドル	34.7%
ユーロ	23.4%
日本円	6.1%
ブラジル・リアル	3.1%
中国元	5.4%
ロシア・ルーブル	1.5%
英ポンド	2.1%
メキシコ・ペソ	1.4%
カナダ・ドル	1.5%
オーストラリア・ドル	1.4%
その他	19.4%

### 平均為替レート

	2014 年度 第 1 四半期	2015 年度 第 1 四半期	前年度比	2015 年 3 月 平均
ユーロ/ドル	1.37	1.13	-17.7%	1.08
ユーロ/円	140.76	134.19	-4.7%	130.41
ユーロ/元	8.36	7.03	-15.9%	6.76
ユーロ/ルーブル	48.08	71.09	+47.9%	65.14

付録 6: 研究開発パイプライン

申請中

N	<b>Praluent®</b> (一般名: alirocumab) 抗 PCSK-9 モノクローナル抗体 高コレステロール血症、米国、EU	<b>デング熱</b> 軽度から重度までの デング熱に対するワクチン
		<b>PR5I</b> (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ) 小児用 6 種混合ワクチン、米国、EU

第 III 相

	N	<b>LixiLan</b> リキシセナチド+ インスリングルルギン 固定比率合剤/2 型糖尿病	N	<b>Patisiran (ALN-TTR02)</b> TTR 標的 siRNA 阻害剤 家族性アミロイドポリニューロパチー	<b>クロストリジウム・ディフィシル</b> トキシノイドワクチン
N	<b>Lyxumia®</b> (リクスマリア)(一般名:リキシセナチド) GLP-1 受容体作動薬 2 型糖尿病、米国	N	<b>revusiran (ALN-TTRsc)</b> TTR 標的 siRNA 阻害剤 家族性アミロイド心筋症	<b>ロタウイルス</b> 経口弱毒化 4 価生ロタウイルスワクチン	
N	<b>SAR342434</b> インスリンリスプロ 1 型・2 型糖尿病	N	<b>Kynamro®</b> (一般名: mipomersen) アポリポタンパク B-100 アンチセンス 重度の家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体 米国	<b>VaxiGrip® QIV IM</b> 4 価不活化 インフルエンザワクチン	
N	<b>sarilumab</b> 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ	N	<b>ジェブタナ®</b> (一般名: カバジタキセル) 転移性前立腺がん(一次療法)		
N	<b>dupilumab</b> 抗 IL4Rα モノクローナル抗体 アトピー性皮膚炎	N	<b>SYNVISC-ONE®</b> 医療機器 変形性股関節症による痛み		

第 II 相

	N	<b>dupilumab</b> 抗 IL4Rα モノクローナル抗体 鼻ポリープ 好酸球性食道炎	N	<b>SAR391786</b> GDF8 モノクローナル抗体 サルコペニア	<b>狂犬病 VRVg</b> 精製ペロ細胞狂犬病ワクチン
N	<b>vatelizumab</b> 抗 VLA 2 モノクローナル抗体 多発性硬化症	N	<b>SAR650984</b> 抗 CD38 モノクローナル抗体 多発性骨髄腫	<b>髄膜炎菌(4 価 ACYW)結合型ワクチン</b> 第 2 世代の髄膜炎菌結合型乳幼児用ワクチン	
N	<b>SAR156597</b> IL4/IL13 モノクローナル抗体 特発性肺線維症(IPF)	N	<b>GZ402671</b> 経口グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ファブリー病	<b>結核</b> 遺伝子組換えサブユニットワクチン	
	N	<b>sarilumab</b> 抗 IL-6R モノクローナル抗体 ブドウ膜炎	N	併用療法 <b>ferroquine / OZ439</b> 抗マラリア薬 マラリア	

N	<b>fresolimumab</b> TGFβ 拮抗剤 巣状分節性糸球体硬化症
---	--

第 I 相

N	<b>GZ402668</b> GLD52 (抗 CD52 モノクローナル抗体) 再発性多発性硬化症	N	<b>SAR125844</b> C-MET キナーゼ阻害剤 固形がん	N	<b>GZ402665 (rhASM)</b> olipudase alfa ニーマンピック病 B 型
N	<b>SAR113244</b> 抗 CXCR5 モノクローナル抗体 全身性エリテマトーデス (SLE)	N	<b>SAR566658</b> メイタンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 固形がん	N	<b>GZ402666</b> Neo GAA ポンペ病
N	<b>SAR228810</b> 抗プロトフィブリル AB モノクローナル抗体 アルツハイマー病	N	<b>SAR408701</b> 抗 CEACAM5 ADC 固形がん	N	<b>StarGen®</b> 遺伝子療法 シュタルガルト病
N	<b>SAR425899</b> GLP-1 / GCGR 作動薬 糖尿病	N	<b>SAR245408 (XL147)</b> 経口 PI3K 阻害剤 固形がん	N	<b>UshStat®</b> 遺伝子療法 アッシュヤー症候群 1B
N	<b>SAR439152</b> ミオシン阻害剤 肥大型心筋症				<b>肺炎レンサ球菌</b> 髄膜炎・肺炎ワクチン
					<b>単純ヘルペスウイルス 2 型</b> HSV-2 ワクチン

N: 新規分子化合物

## 付録 7: 見込まれる研究開発マイルストーン

製品	イベント	時期
Toujeo <sup>®</sup>	糖尿病に関する EU の規制当局の決定	2015 年度 第 2 四半期
Dupilumab	喘息における第 III 相試験の開始	2015 年度 第 2 四半期
Sarilumab	関節リウマチにおける第 III 相試験の重要な結果(見込み)	2015 年度 第 2 四半期
デング熱ワクチン	流行国での薬事承認申請	2015 年度 上半期
Praluent <sup>®</sup> (一般名: alirocumab)	高コレステロール血症に関する米国の規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 3 四半期
PR5i (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ)	米国の規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 3 四半期
LixiLan	糖尿病における第 III 相試験の重要な結果(見込み)	2015 年度 第 3 四半期
Lyxumia <sup>®</sup> (リキスミア) (一般名: リキシセナチド)	糖尿病に関する米国での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 3 四半期
Dupilumab	鼻ポリープにおける第 III 相試験の開始(見込み)	2015 年度 第 3 四半期
Vaxigrip <sup>®</sup> QIV IM (3 歳以上)	EU での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 4 四半期
デング熱ワクチン	流行国での規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 4 四半期
LixiLan	糖尿病に関する米国での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 4 四半期
Sarilumab	関節リウマチに関する米国での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 4 四半期
LixiLan	糖尿病に関する EU での薬事承認申請(見込み)	2016 年度 第 1 四半期
Praluent <sup>®</sup> (一般名: alirocumab)	高コレステロール血症に関する EU の規制当局の決定(見込み)	2016 年度 第 1 四半期

## 付録 8: GAAP (一般会計原則) と異なる財務指標の定義

### 純売上高 (為替レート変動の影響を除く)

「純売上高 (為替レート変動の影響を除く)」での変化に言及する場合は、為替レート変動の影響が排除されていることを意味します。

為替レートの影響は、前期に使用された為替レートで当期の売上高を再計算することによって、排除されます。

### 2015 年度第 1 四半期の純売上高 (調整前) から純売上高 (為替レート変動の影響を除く) への調整

(単位: 100 万ユーロ)	2015 年度 第 1 四半期
純売上高	8,810
為替レートの影響	-782
純売上高 (為替レート変動の影響を除く)	8,028

### 純売上高 (グループ構成の変動要因を除く)

以下のとおり、前期の純売上高を修正することにより、グループ構成の変動の影響が排除されます。

- 買収の影響は、買収の対象となった企業から提供された売上高に関する情報に基づき、現在の期間 (企業または製品の権利が取得された期間) に相当する、買収された企業または製品の前期部分の売上高を含めることによって、排除されます。
- 同様に、企業または製品の権利を売却した場合には、該当する前年同期部分の売上高が排除されます。
- 連結方式の変更については、現在の期間に使用された方式に基づいて、前期部分が再計算されます。

### 事業純利益

サノフィは、GAAP (一般会計原則) と異なる主要指標を発表します。この「事業純利益」という指標は「特別項目を除いた調整後純利益」を置き換えるものです。

事業純利益は、当社株主に帰属する純利益から以下の項目を除外したものと定義されます。

- 無形固定資産の償却
- 無形固定資産の減損
- 合併に関連する偶発対価債務の公正価値での再評価
- 買収に関連するその他の影響 (関連会社に対する買収の影響など)
- 事業再編費用<sup>(1)</sup>
- その他の損益 (非流動資産の売却損益<sup>(1)</sup>を含む)
- 訴訟に関わる費用または引当金<sup>(1)</sup>
- 上記の各項目に対する税効果と主要な税務訴訟の影響
- 当社株主に支払った配当に対する課税 (3%)

(1) 連結損益計算書の Note B.20. で定義されているとおり、再編費用と売却・訴訟に関わる損益の勘定科目で報告されます。

## サノフィについて

サノフィは、グローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、ヘルスケア分野において7つの成長基盤を中核としています。それは糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、および新生ジェンザイムです。サノフィはパリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。

## 今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関するFDAやEMAなどの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減方針とその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの2014年12月31日終了事業年度フォーム20-F年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成したSECおよびAMFに対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。